

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成21年は16万5千トンとなりました。

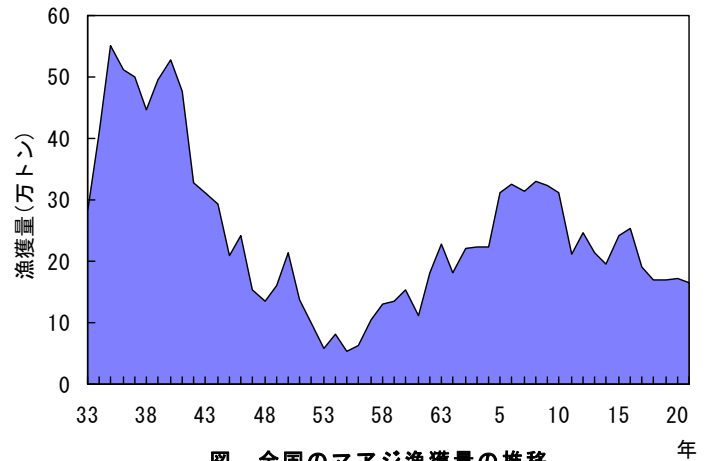


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成 24 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺、天草西沖、牛深沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、立目崎沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、マアジ豆（1 歳魚：平成 23 年生まれ）主体に 808 トンの水揚げがあり、前年の 108 % 及び平年の 71 % となりました。

3. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ豆・小（1 歳魚：平成 23 年生まれ）でマアジ小・中（2 歳魚：平成 22 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ 1 歳魚は、これまで低調に推移していることから、前年、平年を下回ると考えられます。マアジ 2 歳魚も、これまで低調に推移していることから前年、平年を下回ると考えられます。

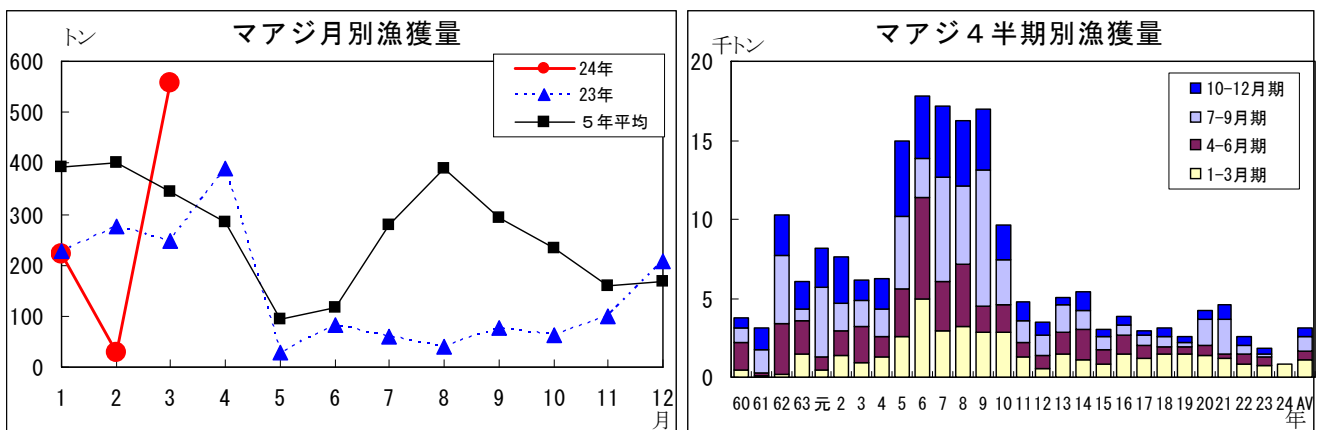


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値（AV）、平成 24 年 3 月 28 日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しましたが、その後減少し平成14年は27万9千トンとなりました。平成17年から再び増加し平成21年は47万1千トンとなりました。

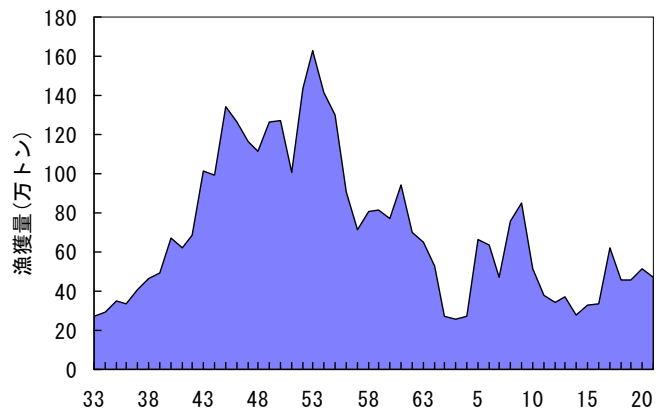


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成24年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島西，天草西沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、馬毛島沖，立目崎沖，島間沖，内之浦沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、北薩海域でゴマサバ豆（1歳魚：平成23年生まれ）主体、薩南海域ではゴマサバ中小（3歳魚：平成21年生まれ）、ゴマサバ中（3歳魚：平成21年生まれ）主体に7,822トンの水揚げで、前年の101%及び平年の179%となりました。

3. 平成24年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中（3歳魚：平成21年生まれ）となるでしょう。

来遊量は前年を下回り、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ1歳魚は、若干の来遊がある程度と考えられます。ゴマサバ2歳魚は、前期まで漁獲対象となっていないことから、前年を下回ると考えられます。ゴマサバ3歳魚は、これまで漁獲の主体となり漁獲が継続していることから、今期も産卵親魚群となって来遊し前年を上回ると考えられます。4歳魚以上の残存資源量はかなり減少しており混獲される程度と考えられます。

以上のことから、非常に好調であった前年は下回るものの、平年は上回ると考えられます。

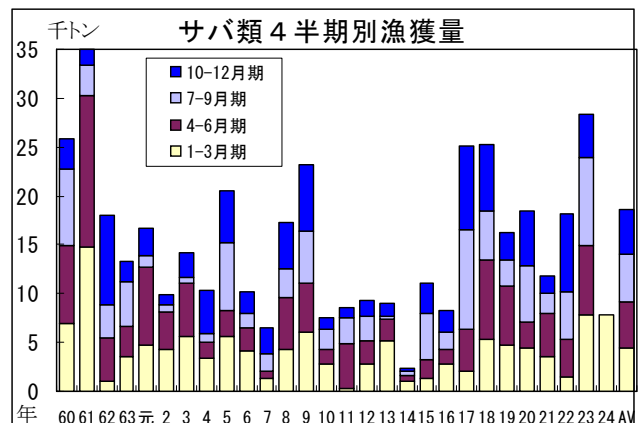
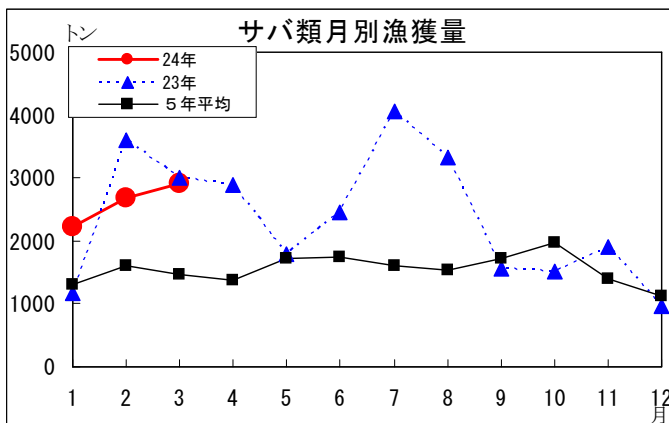


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年3月28日までの水揚量を使用。

[マルアジ（アオアジ）]

1. 漁獲量の動向（水産技術開発センター調べ）

マルアジの漁獲量は、昭和 62 年から平成元年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成 12 年から 15 年に再度ピークを迎え 15 年には 3,150 トンと最高を記録しました。平成 16 年以降は低調に推移し、21 年は過去最低の 94 トンとなりましたが、22、23 年は増加し、23 年は 478 トンとなりました。

2. 平成 24 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

野間池沖、串木野沖が漁場となり、期全体で 103 トンの水揚げで、前年の 66 % 及び平年の 60 % でした。

3. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、マルアジ中・小（2 歳魚：平成 22 年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年並で、平年を下回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

マルアジの来遊は、平年を下回り、低水準の前年並と考えられます。

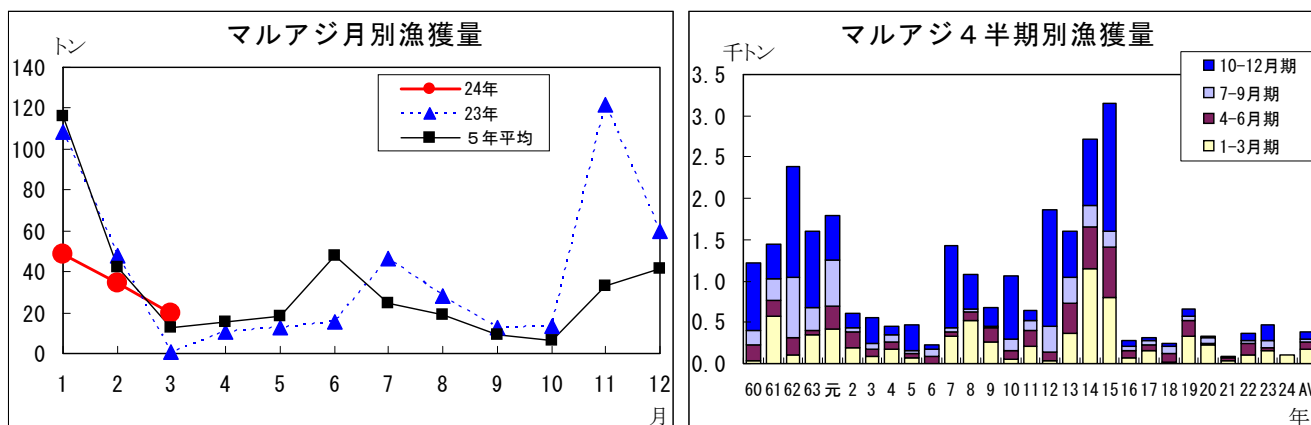


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 3 月 28 日までの水揚げ量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。

その後さらに減少し平成14年は5万トンとなり、以降横ばい傾向で平成21年は5万7千トンとなっています。

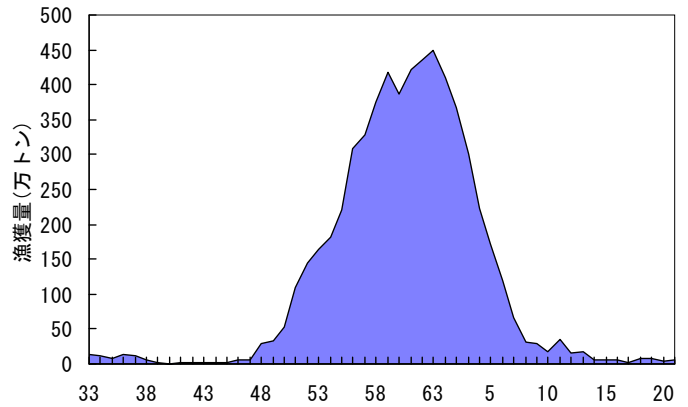


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成 24 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域では漁場が形成されませんでした。

北薩海域の棒受網では、川内沖～阿久根沖にかけて漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（1 歳魚：平成 23 年生まれ）主体に 205 トンの水揚げで前年の 95 %，平年の 173 %でした。

北薩海域の棒受網は、中羽（1 歳魚：平成 23 年生まれ）主体に 36 トンの水揚げで前年の 1,400 %，平年の 203 %と好調に推移しました。

3. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1 歳魚：平成 23 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年は下回り、平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

北薩の棒受網の漁況から、今期の 1 歳魚の来遊も好調になると予測されることから、来遊量は非常に好調であった前年は下回るものの、平年を上回ると考えられます。

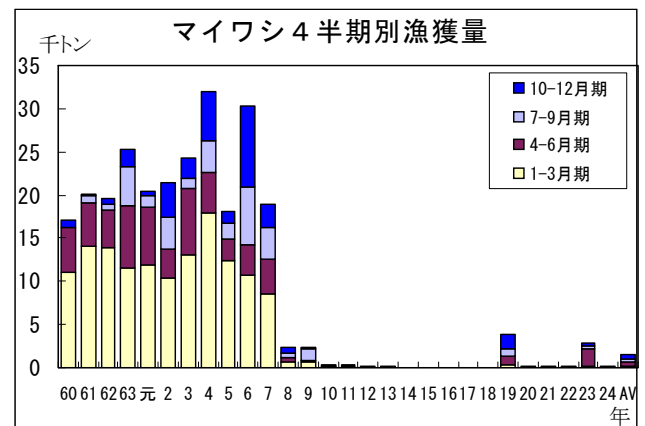
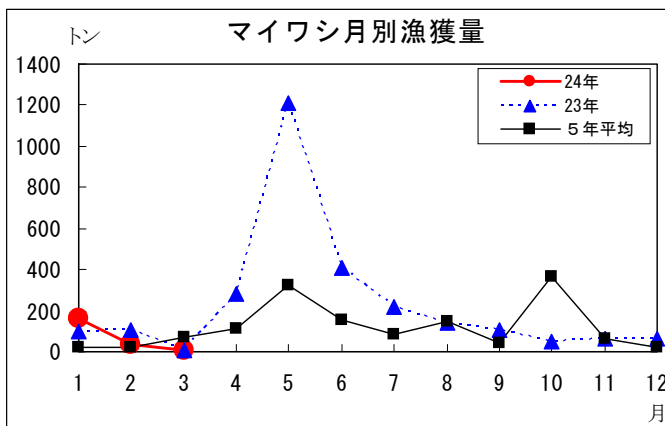


図 マイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 3 月 28 日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりました。その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりましたが、近年は増加傾向となり、平成21年は5万4千トンでした。

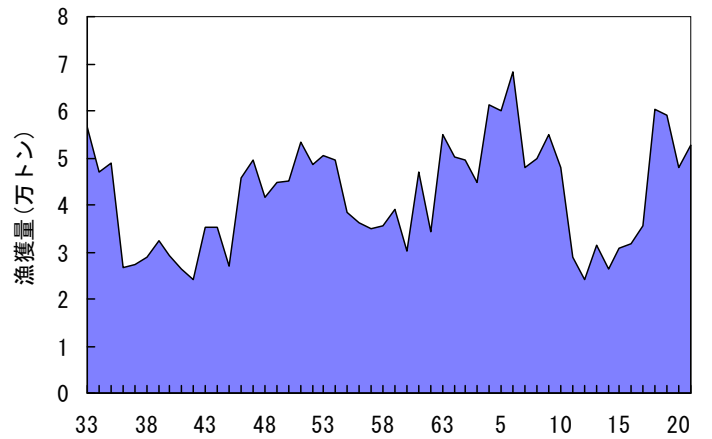


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成 24 年 1～3 月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺、天草西沖に漁場が形成されました。

薩南海域では、立目崎沖、野間池沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽(0歳魚：平成23年生まれ)主体に598トンの水揚げがあり、前年の25%、平年の64%と低調に推移しました。

北薩海域の棒受網では、中羽(0歳魚：平成23年生まれ)と小羽(0歳魚：平成23年生まれ)主体に120トンの水揚げがあり前年の169%、平年の97%となりました。

3. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽(1歳魚・平成23年生まれ)主体に、大羽(2歳魚・平成22年生まれ)混じりになるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

昨年の10月以降低調に推移していることから、今期は前年・平年を下回ると考えられます。

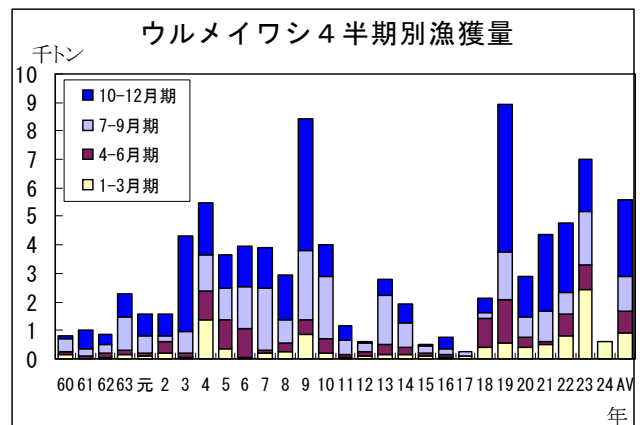
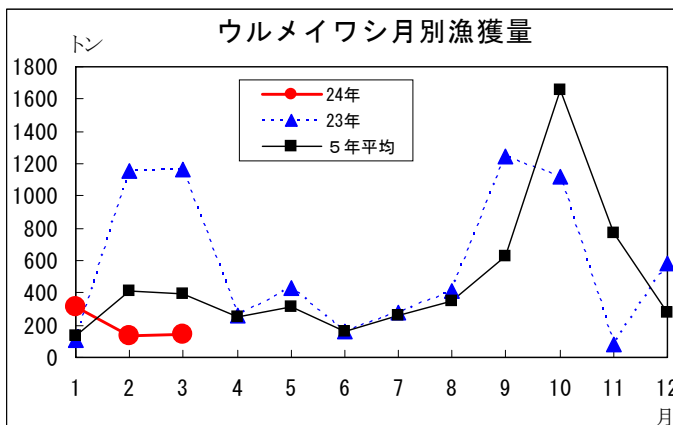


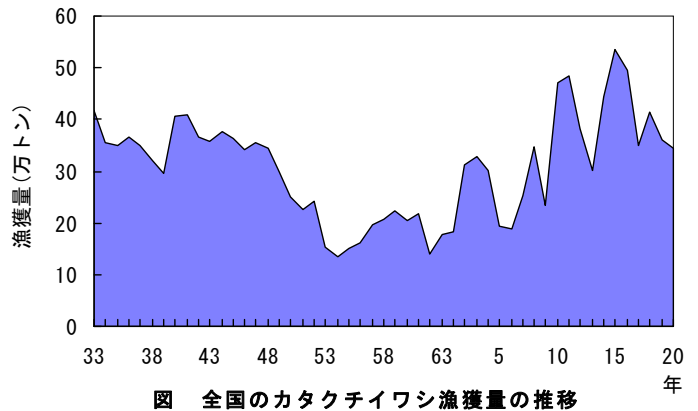
図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成19～23年）の平均値(AV)、平成24年3月28日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成13年は30万トン、平成14年は44万トンでした。平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成21年は34万2千トンとなりました。



2. 平成 24 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の長島に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では 68 トンの水揚げで、前年の 4,465 %，平年の 13 % でした。

北薩海域の棒受網では中羽（1 歳魚・平成 23 年生まれ）主体に 134 トンの水揚げで、前年の 148 %，平年の 96 % でした。

3. 平成 24 年 4～6 月期の見とおし

大羽（1 歳魚・平成 23 年生まれ）が漁獲の主体で、後半は中羽銘柄（1 歳魚・平成 23 年生まれ）が混じり、来遊量は前年・平年並でしょう。

（根 拠）

現在の漁況と、西薩海域の昨年の春季のバッチ網の漁況から来遊水準はあまり高くないと考えられます。

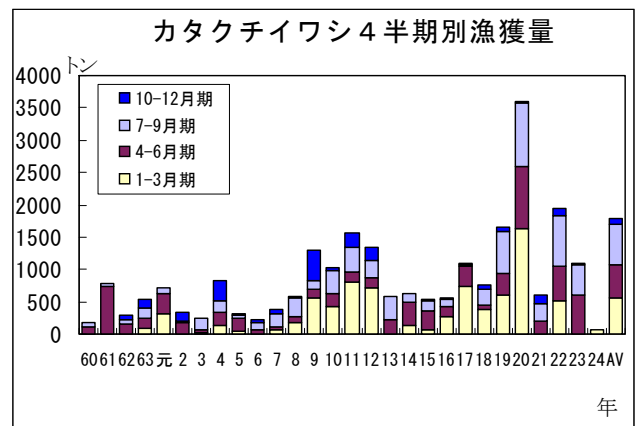
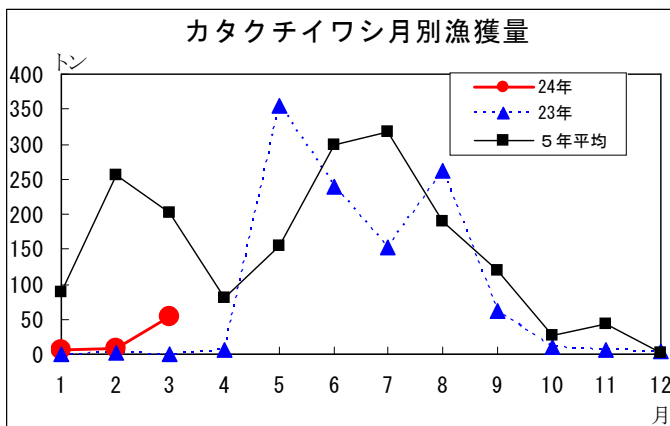


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 19～23 年）の平均値 (AV)，平成 24 年 3 月 28 日までの水揚量を使用。

[イワシ類参考資料]

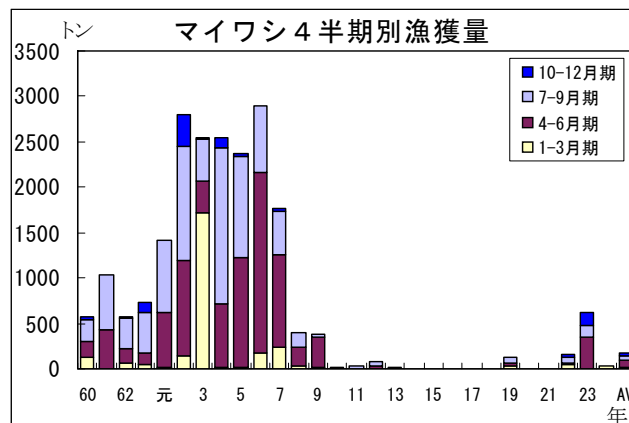
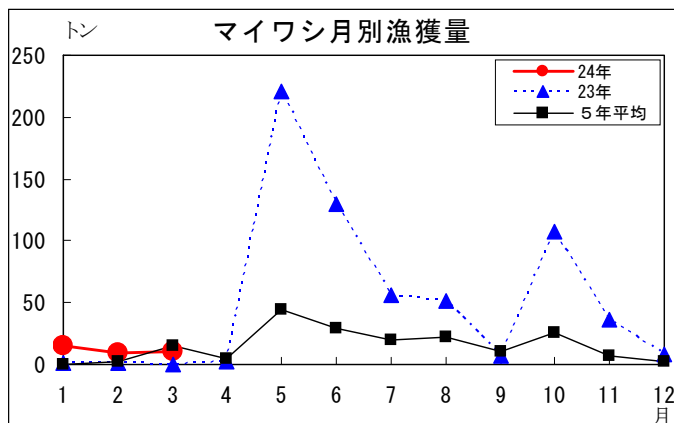


図 マイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

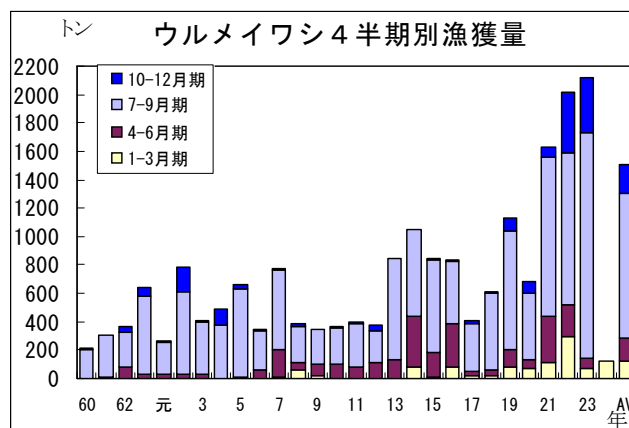
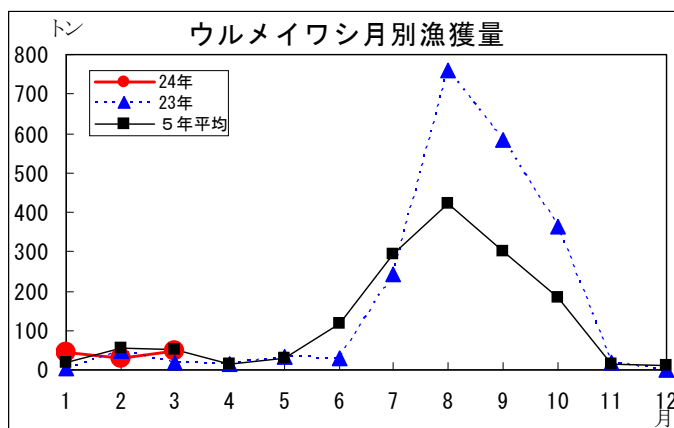


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

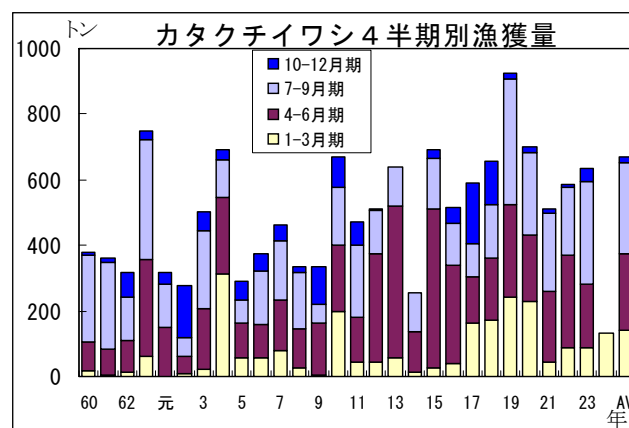
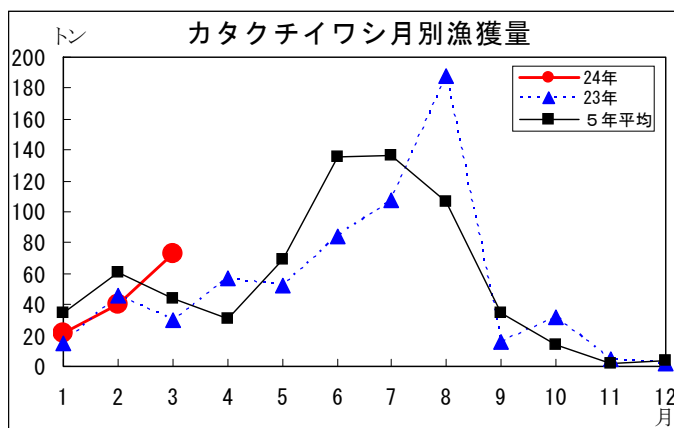


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成19~23年)の平均値(AV),平成24年3月28日までの水揚量を使用。

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成24年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成23年は4,480トンとなりました。

平成24年1～3月は、薩南海域では、クサヤモロ小、モロ小が漁獲されました。期全体で422トンの水揚げで、前年の52%及び平年の70%となりました。

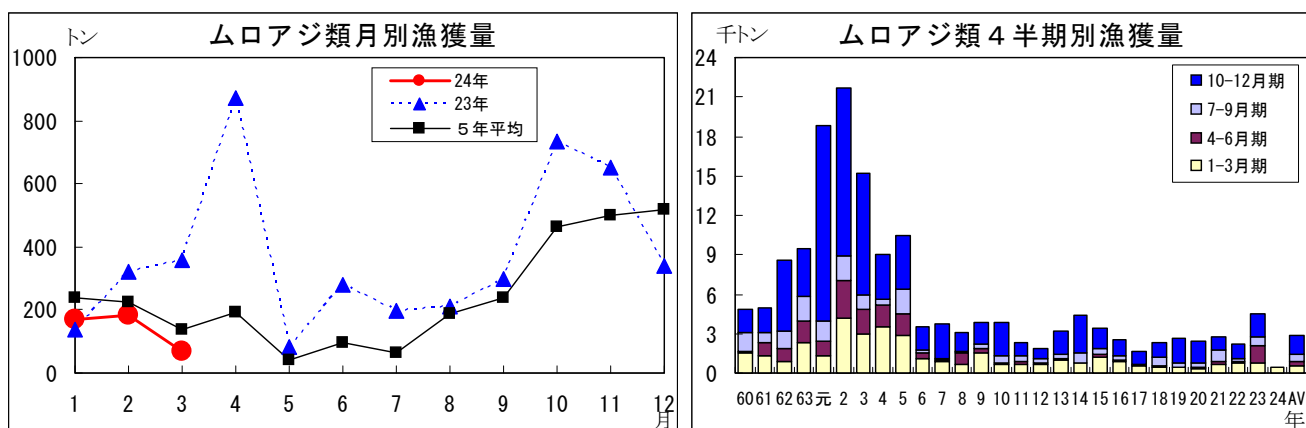


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成19～23年)の平均値(AV)、平成24年3月29日までの水揚げ量を使用。

〈オアカムロ（4港計）〉

1. 経年変化及び平成24年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成23年は1,498トンとなりました。

平成24年1～3月は、薩南海域では、オアカムロ豆が漁獲されました。期全体で62トンの水揚げで前年の19%及び平年の13%と低調に推移しました。

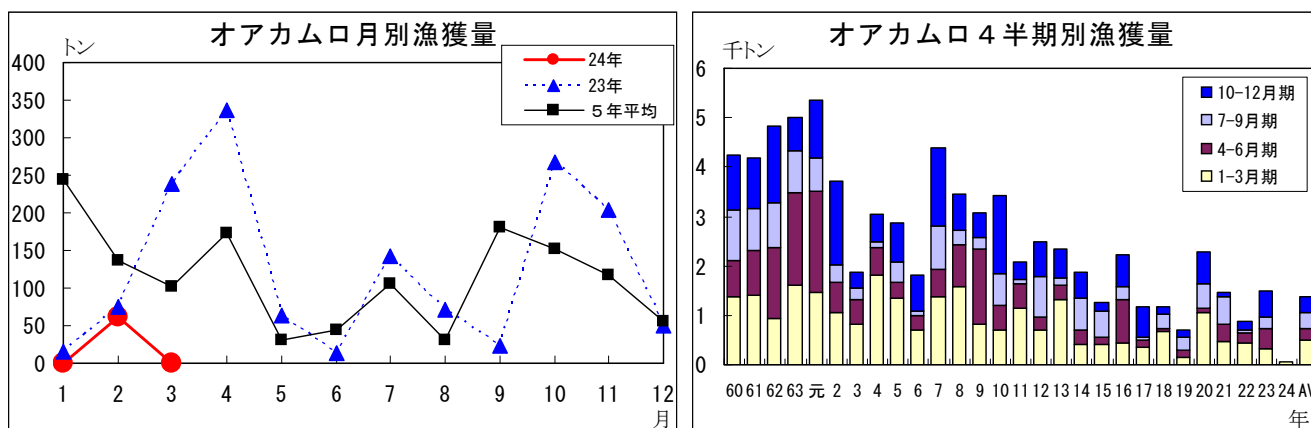


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成19～23年)の平均値(AV)、平成24年3月28日までの水揚げ量を使用。